

# O.S.P



VOL.25  
November

{ OSPREY / SPIRITUAL / PERFORMER }

無料

ご自由にお取りください

## オリキン ハイクール The Field Guide

第7講 H-1GPX二度目のA.O.Y.獲得  
— 今年、活躍したルアーを一挙公開 —

O.S.Pプロスタッフが  
ホームレイクを徹底紙上ガイド

～青山右京@五三川～



O.S.P  
動画

…▼…  
随時  
更新!!

## 刻まれた傷はルアーの勲章

シャッドを使いこなせば  
秋のバスはもっと簡単に釣れる

### Autumn method

Shad Technique

晩秋を制するシャッドメソッド

近藤健太郎×遠賀川  
北田朋也×霞ヶ浦水系



A man named  
*Takuya Hashimoto*

O.S.Pプロスタッフの知られざる素顔をご紹介します。  
第三回 W.B.S.プロ 橋本卓哉

並木敏成&O.S.Pの最新情報はこちら。

並木敏成 ↓

O.S.P ↓



# Journal

折金高 Orikin High School

# オリキンハイスクール

前号の「課外授業」で取りあげたH-1グランプリ。最終戦の相模湖で優勝し、自身2度目となる年間優勝を果たしたオリキン。今回は1年を通して出番が多かったルアーを5つセレクトして具体的なシチュエーションを交えながらオリキン流の使い方を紹介してみたいと思います。

## 1 限目 A.O.Y.を決める1匹をキャッチ

**なにも無い所で食わせられるチカラを持つ数少ないルアーの1つ**

相模湖本湖のロープに浮いているバスへ見せて食わせられるルアーはなにか?と考えた時に、真っ先に手にしたルアーがハイカットSPでした。なにかに当てることもできないので、ごまかしが効かないシチュエーション。そもそものただ巻きアクションに食わせ要素がしっかり組みこまれているかどうか勝負を分けました。リトリーブスピードはミディアムからちょっと速めぐらい。ロープの角度にあわせてなるべく長く引けるようロッドポジションを調整したり、キャストする距離にも気を遣いました。手にできたのは2匹——750gぐらいとキロフィッシュだったのですが、大きい方は本当に終了間際。優勝できたのも嬉しいのですが、なにより40gの僅差でA.O.Y.を獲得できたのは、この1匹があったからこそだと思います。



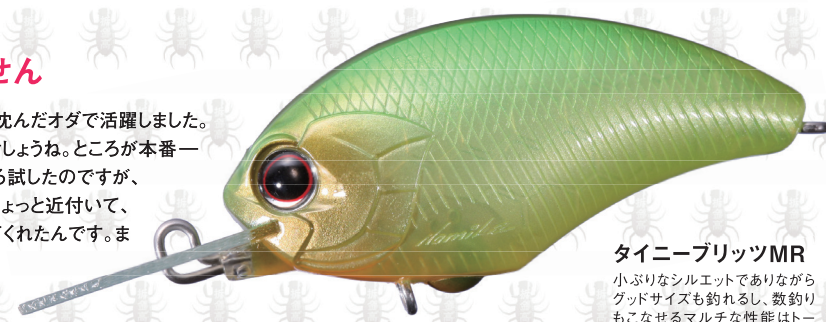
**ハイカットSP**  
このサイズ感で2.5~3m潜り、さらにファストリトリーブで使えるというのが大きなアドバンテージ。「クリアな所で泳がせると他とは違うアクションが一目見てわかりますね」。



## 2 限目 「これが無かったら困りますね」

**トーナメントでもプライベートでもタイニーブリッツMRは欠かせません**

新利根川上流、岸から5~10m離れた所にあるブレイクに沈んだオダで活躍しました。ブラクティスでは簡単に釣れたので状況に合っていたんでしょうね。ところが本番——釣れないんです。なにか違うんだろうなと思っっている試したのですが、その中で見つけたのが潜り始めの動きを使う食わせ方。ちょっと近づいて、ルアーが潜っていく途中でオダに当たるようにすると食ってくれたんです。まあまあ早巻きのほうが良かったので、きっとリアクションで食っていたのでしょう。オダの水深もまちまちなので、浅い所はベイトで、深い所はスピニングで細いラインを使ってより潜らせられるセッティングで使いました。数も釣れるし大きいのも食ってきますよ!



**タイニーブリッツMR**  
小ぶりなシルエツでありながらグッドサイズも釣れるし、数釣りもこなせるマルチな性能はトーナメントのみならずプライベートフィッシングでも活躍。

## 3 限目 マディウォーターでも活躍

**小魚ボイルだけじゃない! 小型のエビが水面を泳いでいたら**

新利根川戦でキーになったルアーがオーバーリアル63ウェイク。ちょうどオーバーリアルぐらいのエビが追われていて、岸際で跳ねていました。その瞬間に投げれば釣れるのはイメージしやすいと思いますが、そうそうタイミングよく直接狙える時ばかりではありません。ですがオーバーリアルはボイル後でもふたたび水面を割らせることができるルアーなのです。小さいシルエツで引き波をしっかり立てられるのと、止めて漂わせている時のフェザーの動きが効いているのだと思います。水面近くでエビがホバリングしているのをイミテートできますからね。いままでは小魚を追っている時に使うことが多かったのですが、エビを意識しているバスに対してでも有効という新たな発見ができた出来事でした。



**オーバーリアル63ウェイク**  
いつもはフロロ4ポンドぐらいで使うが、この時は遠くのボイルも狙えるようPE0.3号にリーダー4ポンドを組んだボイル狙いのタックルセッティングで使用。

## 4 限目 移動時間を有効活用

**ただ移動するだけでは時間を無駄にしてしまう...**

これも新利根川戦。僕が狙っていたエリアは遠かったので24ボルトのエレキで6割ぐらいのスピード(長時間全開走行するとエレキが壊れてしまう)で向かっていました。他の選手は全開移動していたので、速度差からうまく人がいなくなるタイミングができたんですね。長距離移動を戦略にしている場合、どうしても朝一のチャンスタイムを無駄にしてしまうことがあります。そんな移動中でも使えるルアーは何かと考えたときに思い浮かんだのがゼロツービート。走りながらなのでキャスト精度も落ちる——それでも食ってくれるようアピール力が高めのルアーを使う必要がありました。水面なら自分のロッドワークやリトリーブスピードでコントロールできるので、試合じゃなくても移動の時間を無駄にしないように投げてみると、いいことがあるかもしれませんよ。



**ゼロツービート**  
移動中でも操作しやすい水面系ルアー。クラッカー音によるアピールで少々離れてるバスでも追わせて食わせる性能は、今回の戦略にベストマッチだった。

## 5 限目 食わせのできるリアクションベイト

**ワームの代わりではない! コレだから反応するバスがいる**

メタルバイブなので秋から冬に使うルアーというイメージがあると思いますが、僕はスポーニング期以外ならオーバーライド3/16oz.をシーズン通して使います。水温変化であたり水質悪化であたりと、なにかしらの要因でふつうのルアーを食わないときに活躍してくれますね。僕の中では他のルアーではできないことができるルアーという位置付けですね。相模湖戦のブラクティス、カバーに浮いたバスに対して底まで沈めずに中層でアクションさせると釣れましたし、水温が下がって低活性のバスや、本湖でフィーディングしているようなバスは、ブレイクや岬絡みを細かくシェイクしながら落とししていくような使い方でも釣ることができました。H-1のときワームの代わりに無理矢理メタル系を使っていると思われるかもしれませんが、そうではありません。実際に亀山湖のガイドでもふつうに使っていますし、ワームとは違ったバスが反応してくれるルアーでもあります。



**オーバーライド**  
使い方のイメージはヘビータキサスのシェイキング。ワームでは反応しにくいバスが釣れるのもオーバーライドならではの。

Message from H-1 A.O.Y.

### ハードルアーに苦手意識を持つアングラーたちへ

僕もみなさんがワームを使いたくなる理由もよくわかります。じっさいに高比重ノーシンカーワームってよく釣れますよね。ただ、ワームってある程度小刻みに撃ってって食わせるのに向いているルアーですよな。ただ、ハードルアーが持つ魚を惹きつけるチカラを使わないと釣れないバスがいるのも確か。イメージとしてはワームだと10回投げけるような場所を2~3投で反応させ、大きいのを釣っていく感じですかね。巻いてくる途中で引たくっていくバイトはワームではなかなか体験できない衝撃があるでしょうし、自分がハードルアーをしっかり操って動かしている最中にバスが本能むき出しで食ってくる——これはルアー釣りでは味わえない楽しさかと思えます。せっかくだらなルアーがあり、いろんな楽しみ方があるのだから、これしかやらないというのはもったいないと思います。釣りをやらない人が釣りの楽しみを知らないように、ジャンルに囚われすぎて他の楽しみ方をしないのももったいない!せっかくだらなバス釣りをしているのですから、もっといろんな楽しみ方をさせていただきたいですね!

2016シリーズに続き二度目の栄冠を手にしたオリキン。とある編集者が「両生類最強の漢だね!」と声を掛けたら本気でイヤそうな顔をしていたのは内緒。なお「カッパって両生類?」というツッコミは受け付けません。

全国で活躍するO.S.Pプロスタッフ  
彼らが歩んできた道を振り返る

A man named

# Takuya Hashimoto

## 橋本卓哉

「バス釣って格好良く見えたし  
オシャレに見えたんだよね」

「十代の頃にバイクレースをやっていたんだけど、レースを辞めてもなにか趣味が欲しいなと思って始めたのが最初かな」

サーキットの近くには野池も多く、レース仲間の中にもバス釣りをやっていた人は意外と多かったという。

「で、最初買ったのがファミコンのバス釣りゲーム(笑)。そうしたら、なんか面白そうだなと思ってやり始めたんだ」

当時はオカッパリでも30匹など非常によく釣れた時代。ボートに乗ったらもっと釣れるだろうと思いレンタルボートへ。そしてマイボートが欲しくなり、アルミボートを購入するとNBCチャプターに参戦し始めた。

「もともと競技志向なところがあつたから、大会で上位入賞できるようにするとプロ戦にも出たくなる。で、バスボートが欲しくなり買った、と」

そんな中で橋本のバス釣りにおける目標が定まった出来事、それがバサーオールスタークラシックのプレス乗船だった。

「試合で同船して間近でプロの釣りを見て、こういう突き詰め方をしていくんだ、すごいな——と思う反面、これって自分でもやれるんじゃないね?こまめでいくのに、そんな時間は掛からないんじゃないね?と、この時は思ったんだ」

ある意味、ひんしゅくを買いかねない分析ではあったが、なんと橋本はそれを実現してしまう。WBSに参戦して2年目にプロクラシックを優勝。翌年のバサクラへの切符を手にする、2007年には初出場優勝という快挙を成し遂げた。

「プロになりました、ちょっとメジャーになりましたというのがこの時期。だけど、そこからが本当に大変だった。壁にぶち当たった感じだね。一線で活躍するプロとの差を痛感してスキルアップを目指したんだけど…」

練習に割く時間の大切さや技術、経験の積み重ねを橋本は重要視しているが、こと釣りにおいてはそれだけでは足りない何かがあるという。

「流れを引き寄せるリズムっていうのかな?うまく説明できないんだけど、この部分の要素がすごく強いのがバス釣りなんだよね。結果に結びつけるためにはどうすればいいのか、いまだにわからない。わからないから面白い!」



いくらキャストが上手かろうが、魚を見付けるのが上手かろうが、リズムが狂いだすと釣れなくなる。それがメンタル的な部分なのか、経験則からくるものなのかはわからないという。

### 状況にあったルーセレクトを 迷いなくできる完成度の高さ

「O.S.Pというスポンサーに出会って、もう十数年になるのかな。自分の歩みといつも一緒にいてくれたメーカーなんだけど、O.S.Pのルーアーを使っていて思うのはルーアーセレクトに迷わなくて済む——つまり時間を節約できるというのがすごく助かっているよ」

ふつうなら「こういう釣り方に対して、こういうルーアーはないかな?」と探していく必要があるのだが、ことトーナメントシーンに身を置くアングラーたちにとって、その時間を節約できるのは大きなメリットだ。

「たとえば世の中にクランクベイトのなんて無限にあるよね。その中から正解の1つを探しだすんじゃなくて『ブリッツを使っておけば間違いないっしょ!』って自信を持って言えるほど信頼度があるメーカー。O.S.Pがあるからルーアーチョイスが簡単になっているよね」

2018年、WBSプロトーナメントでAOYを獲得し、来年のバサクラ出場を内定させた橋本にとっての目標とは?

「一度獲ったタイトルをもう一度獲る壁——それを乗り越えたい、もう一度勝ちたい!あとは金銭面や環境的に余裕があればアメリカのオープン戦とかもやってみたいかな」

この世界に身を置いている以上、トーナメントシーンから退くつもりはないし、もし退く時がくるならば、それは橋本にとってのバス釣りが趣味になる時だと語っていた。

「かといってバリバリのトーナメンターだぞって空気は出さないの。恥ずかしいから(笑)」

約10年間、臨み続けてきた壁を越えるための戦い。約1年後のバサーオールスタークラシックで、橋本はどんな姿を魅せてくれるのだろう。

プロの本気の釣りを間近に見て



ひらめき型 天才アングラー

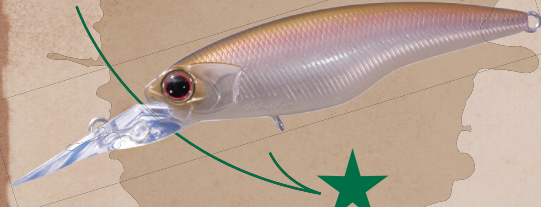
### TOSHI'S EYE

並木敏成が見た、橋本卓哉というアングラー。

しっかりとした戦略を組めるのが卓哉の強さだろう。ある時はパワーボールを刺して粘り倒すような釣りもすれば、ある時は動きながら巻き倒す、撃ちまくるという釣りもするし。それと、霞ヶ浦で

は、まだ誰もがやっていなかったような攻め方をしてトーナメントで結果を残すなど、あらたな攻略法を確立してきたアングラーでもある。来年のバサクラで戦えるのを楽しみにしている!

## HighCut SP

60.0mm / 5.3g  
有効レンジ1.5~2.5m

shallow

## DUNK 48 SP

48.0mm / 5.0g  
有効レンジ1.5~4mレンジと  
アクションで  
使い分けよ!

minnow like

crankbait like



## HighCut DR SP

60.0mm / 5.6g  
有効レンジ2~3.5m

deep

POWER DUNK  
57 SP57.0mm / 7.9g  
有効レンジ2~4m

ダンクシリーズはディープクランク的な要素の強いシャッドプラグという位置付けでお考えいただければ、使うべきシチュエーションも見えてくるかと思う。他のルアーではアクションしないような超スローリトリーブでもアクションするのは低水温期を攻略するにあたって欠かせないアイテムになっている理由の1つでもある。

リリースされた2002年当時、シャッドといえばシャローで使うルアーというのが一般的だった。より深いレンジをタイトなアクションのシャッドで狙いたい。そういったコンセプトで開発が進められたのがダンク48SPであった。

0.5~4mという幅広いレンジに対応可能だが、メインとなるのは1.5~4m。着水地点から急速潜行させたいような場所——たとえば垂直護岸であったり急なブレイクでも、短い距離で潜っていくことによりバイトチャンスより長く取れるのは大きなアドバンテージとなっている。

水深3m以深といえば、ふつうならディープクランクな

どで狙うしかなかったレンジだが、細身のスモールシルエットであるダンクが登場したことにより、ハイプレッシャーやタフコンディション下でもバイトを得られた経験を持つ方も数多くいらっしゃるだろう。

これに対してミノライクなシャッドといえばハイカット。当初はクリアウォーターをターゲットに開発が進められてきたが、2008年に発売されるやいなやマディウォーターからの釣果報告も相次いだ。動きは、よりタイトアクション。簡単に言ってしまうとミノライクな動きで、より深いレンジを攻められるプラグとお考えいただきたい。

水深1.5~2mを得意としていて、ただ巻きでもトゥイッチでも食わせられる汎用性を持つ。クリアウォーターはもちろんのこと、マディウォーターでも根掛かりの少ないシャローエリアなどで活躍する。何かにコンタクトさせなくても中層で食わせられるのは、洗練されたアクションだからこそと言えよう。

近藤健太郎 × 遠賀川

LURE

ハイカットSP

Shad Technique\_1

超高速リトリーブで  
リアクションバイトを狙う

と にかく巻くだけで釣れるのがハイカットのいいところ。遠賀川ではリップラップがあるような場所で使っています。リトリーブスピードはミディアムからファストまで。リップラップに当たった瞬間にリアクションで食ってくる感じがですね。コンと当たっても姿勢の回復が早いので、そこで根掛かってしまうことも少なく、リズムよく使えるので重宝しています。

ちなみにファストリトリーブですが、これは超高速巻き。ラバージグなどでバンク撃ちをしていて、それを回収するぐらいのスピードがマックスだと思ってください。他のシャッドでは水面から飛びだしてしまうほどのスピードで巻いてもハイカットなら泳ぎ続けてくれます。

自分はガイドもしているのですが、「今日は釣れないぞ、困ったな」という時のお助けルアーがハイカット。正直、サイズは選べないのですが、20~30cmのバスからグッドサイズまで食ってくるので、ハードルアーの釣りに慣れていらない方でも簡単に楽しく、すぐに使いこなせるようになっていただけます。

タックルは掛かったら確実にキャッチできるように、水深2m位までならMLパワーのスピニングでフロロ4ポンドを。1m位ならベイトフィネスタックルでフロロ7ポンドを使用していますね。

マックススピードで巻いてガツンと食ってくるスリリングな釣りをぜひお試しください。きっとハマりますよ!

北田朋也 × 霞ヶ浦水系

LURE

ダンクSP

Shad Technique\_2

ボトムから離れずに  
デッドスローでも泳ぎ続ける

× インで使うのは厳寒期なのですが、放射冷却で冷え込んだ朝など活性が下がった時はダンクの出番です。ボトム付近にバスがいる状況で使うので、早く巻くことはないですね。ゆっくり巻いて何かにコンタクトさせて止めてという感じです。

使えるレンジがとでも幅広く、それこそ水深50cmぐらいから3~4m——これは北利根川だとちょうどブレイクラインに当たる深さなのですが、そこで非常に使いやすいというのが1つ。

あとはいきなり1mから3mまで落ちてしまうようなブレイクもあるんですが、長いリップで根掛かりも回避しつつ、きれいにボトムコンタクトしながら泳いでくれる

のがもう1つのメリットです。

それならばライトリグで狙えばいいのでは?と思うかもしれませんが、これからの時期ショートバイトで乗せきれないアタリも増えてきます。ハードルアーだとトレブルフックがそんなバイトも絡めとってくれますので、これも出番を増やす要因になっていますね。

僕の中でダンクの出番が増えてくるのは例年11月中旬以降。ライトリグでバイトはあるけど乗らない、そんな時はダンクにルアーチェンジして、ロッドワークでワームをズル引くような感じで使ってみてください。あとは人気エリアで人為的プレッシャーにより食いが浅くなったような時にも有効ですよ!

# The Field Guide

O.S.Pプロスタッフがメジャーフィールドを紙上ガイド

Vol. 15 岐阜県・五三川

今回ご紹介するのは岐阜県の五三川。全体水深は浅く、ほぼ全面護岸されており狙いを絞りにく感じるアングラーも少なく見よう。水門や護岸に被ったオーバーハングなどの小さな変化を見落とすことなく狙いつつも、巻物系で広く探るのがセオリーとなる。

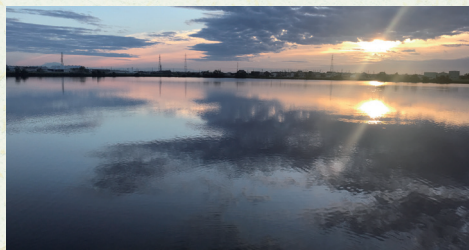
案内人はこの人  
あおやま うきょう  
**青山 右京**

岐阜県の五三川をメインに地元野池や河川をおかっぱりで釣り歩く。ストロングスタイルのカバーゲームが得意で、スケーティングフロッグやO1ジグ、ドライブシャッドがフェイバリット。日々、時間があればフィールドに行きバスフィッシングを追求する、将来有望な若手アングラー。

## ベイトのサイズが比較的小さいので小型プラグの出番が多いフィールドだ

1日で水が抜かれて水位が変動するのが五三川。流れが発生することでベイトがシャローへ上がって、それによりバスのスイッチが入ったり、一緒にシャローへと入ってきたりする。メインベイトはスジエビやイナッコなど。今年はスジエビが大量発生し、ドライブクロー3インチや場合によっては2インチのダウンショットなどで好釣果が得られた。

秋が深まるにつれ、食性は小魚系へとシフトしていくので、これからの時期はタイニーブリッツシリーズやハイカットがオススメ。水深は1m前後の所が多く、深い所でも2mほどと全体的に浅め。沈み物も多いのでスナグレス性能の高いルアーで狙いたい。



①細池

一部はナチュラルバンクだが、全体的に変化は少ないので水門などがキーになる。水が動いている時は魚も入ってくるのでチャンス大。



②養鶏場前

タマネギと呼ばれる石積みネットが積まれている。沖で小魚が追われていることもあるので足下以外も狙おう。トップウォーターもオススメ。

### 〈五三川おすすめルアー①〉

#### タイニーブリッツシリーズ

この時期なら、まずはタイニーブリッツで広く探っていく。ノーマルとMRは水深による使い分け。何かに当たったら止めたり浮かせた状態からジャークして潜らせるような使い方もする。五三川は沈み物が多く、ボトムを叩きすぎると根掛かってしまうので注意。



タイニーブリッツ

タイニーブリッツMR

### こんな上流までイナッコが？ 五三川のルアーカラーセレクト

岐阜県を流れる五三川だが、イナッコ(ボラの稚魚)やシーバスも上がってくる。秋が深まるとバスの食性はエビ系(今年はスジエビが多かった)から小魚系へとシフトするので、ハードルアーもそれに似せたカラーがオススメだ。右京はマットシャッドを基準に、そこから濁り具合、光量をふまえてカラーをローテーションしている。



③団地裏

五三川でもっとも水深のあるエリア。足下の階段状だった護岸が老化し崩れたものがボトムに落ちていて、それにバスが着いているぞ。

③団地裏



### 〈五三川おすすめルアー②〉

#### ハイカットF

早巻きのリアクションで食わせよう。何かに当たった瞬間がバイトチャンスだが全体水深の浅い五三川では根掛かり回避のためフローティングが最適。



### 水門は要チェック

水門が動くと小魚が集まり、それを食うためにバスが集まってくる。水が動いている時はかならずチェックしよう。ハイビッチャーなどがオススメ。



### 入漁料は現場で

漁協の方が巡回しているので、入漁料はその際に支払えばOK。ただし最上流の①細池に関しては管轄が別になるので別途徴収される。

### ⑦五三川最下流

そこら中に杭が入っていて沈み物も多いエリア。何かにコンタクトしたら止めて浮かせられるフローティングのプラグで広く探ろう。

### カバーの下は垂直護岸

陸側から見るとわかりにくいですが、ベジテーションの下は護岸された垂直な壁。バスは護岸ギリギリにいるので、縦にルアーを落とし込む感じで狙おう。



### 〈五三川おすすめルアー③〉

#### O.S.PジグO1+ドライブクロー3インチ

左の写真のような場所はO.S.PジグO1をメインで使用。5gでゆっくり落とし見せて食わせるか、14gでストンと落としてリアクションで誘うかはその日次第なので、両方お試しください。メインベイトは小さなエビ系のため、マッチザベイトでコンパクトなシルエットを心掛けよう。一口サイズで食えるようにトレーラーはドライブクローは3インチ。フォール時に手の動きを妨げないようにラバーも若干カットして使うのが右京流。



O.S.PジグO1

ドライブクロー3インチ

サッシ前

⑤

⑥ホテル裏

保育園裏

④



⑤サッシ前

特徴があまりないエリアなのでランガンスタイルで投げて巻こう。夏場は護岸際にできたシェードにスケーティングフロッグで楽しめるぞ。

④保育園裏

ワンドになっていて反転流が起きるのでベイトが溜まりバスも集まるエリア。水深があり、土手で風もブロックされるので越冬場にもなる。



### 〈五三川おすすめルアー④〉

#### ゼロツービートJr.パビー

秋になると使う人がグッと減るバズベイトだが、朝夕は表層でフィーディングするアグレッシブなバスもいる。冬でもデカイ個体はシャローに入ってくるので、杭などを絡めて狙っていく。一発狙いにはなるが、出ればデカイのがこの時期のバスベイトゲーム。ただしハイシーズンよりは若干スローに巻いたほうがいいとのこと。



### タマネギはエビマンション 沖のブレイクも見逃すな

護岸際に沈められているネットで包まれた砂利、通称タマネギ。霞ヶ浦水系などでは良く目にするのが五三川では少なく、貴重なカバーとなっている。今年はスジエビが大量発生したので、こういったカバーに目がいった方も多かっただろう。水位によっては沖目でボイルが起こるので、足下のカバーばかりに目を奪われないようにしよう。

